

受け継がれるもの

棚倉中学校 2年

みどりかわ かずま
緑川 和真

先輩方は、笑顔で教室を出ていきました。これは、ソフトテニスの部活動で経験したことです。

僕は今まで、この光景を二度見たことがあります。入学してすぐ、そして今年の六月です。

一度目は知り合って間もない12名の先輩方でした。話した事はほとんどないものの、プレーや練習の集中がすごく、尊敬していた人達でした。先輩達が最後の中体連に挑む姿は、どんな人よりもかっこよかったです。僕もこんな人になりたいと思いました。

決戦の舞台で先輩は、全員が勝つという思いが強く伝わってくるプレーをしていました。それは、気持ちの強さ、日々の練習がにじみ出ているのだと思いました。

帰りのバスの中で先輩の一人が僕に、

「明日で僕達は、いなくなるから君たちもコートも使えるね。」

と言いました。僕は、泣きそうになりました。明日でもう、お別れなんだと初めて意識しました。僕は、ずっと変な気持ちでした。

次の日から新しい部長を中心に、また練習が始まりました。その時の先輩もすごいと思っていましたが、いつしか勝ちたいと思い、それが大きくなっていきました。勝ちたい。悔いの残らない試合をしたい。その為に、必死に練習しました。家で自主練をしたり、大変な事も辛い事もあったけど、その努力はムダにはなっていないと思います。

その甲斐もあって九月の新人戦では、団体戦の選手に選ばれました。一年生なのに選んでもらえて嬉しかったです。絶対に先輩の役に立ってやる。そう思いました。自主練もハードにして、少しでも良いプレーができるように頑張りました。

しかし、現実には甘くはありませんでした。三本勝負で一勝一敗、僕達の勝敗によって県南大会へ進めるかが決まる試合でした。負けました。僕のミスで負けたんです。自分のせいで、先輩は次に進めなかった。自分が終わらせてしまったと思うと涙がより止まりませんでした。僕は、みんながいる前で泣いてしまいました。自分の弱さと不甲斐なさで迷惑をかけてしまった。試合後、多くの人が声をかけてくれましたが何も聞こえませんでした。そんな僕に声をかけてくれたのは、部長でした。

「そんなことないからさ。個人戦頑張っていこうよ！ね？」

言葉の重みが違いました。ここまで温かく、強く、優しい言葉をかけてもらったのは初めてでした。僕は、気持ちを切り換えることができ、個人戦で県南大会へ進むことができました。

その先輩方とは、多くの思い出ができました。勝利の喜びを全員で分かち合ったり、敗北の理由を探したり、強い絆で結ばれていました。でも先輩方との別れはすぐ側にまで来ていました。二度目の中体連です。

全員が必死になって練習をしました。強くなったと思います。勝利をつかもうと全力で努力をして戦いました。しかし壁は高く、県大会へは進めませんでした。

次の日、先輩達から僕達へ、バトンが渡されました。先輩達へ一言を言うとき僕は、

「僕たちに任せてください。」

と言いました。先輩達は笑顔で教室を出ていきました。

しかし、部活の皆を引っ張るのは難しく、何より進むべき道しるべがありませんでした。そこで僕は、思い出しました。今までの事を。先輩方を。そして自分たちが道しるべになるのだ

と思いました。初めの代から次の代へ。そしてまた次へとつないできた物を僕達がつなぐ番だと分かりました。今まで受けつがれてきた、物、心、全てを次の代へとつないでいきたいと思います。

僕達が道をつなぎます。